

郷地・東町かわらばん

〈発行責任者〉 郷地東町連合自治会会長

志村和亮

〈作成〉 総務広報部：角田三郎・小島分三・
宮崎文男・木村悦雄・藤尾 敦・
柿澤 修・中島岩雄・清水和子

多摩川危険箇所点検を実施

7月9日、毎年草木が生い茂るこの時期に多摩川河川敷沿いに立ててある、危険を表示した看板の点検が行なわれました。当連合自治会からは志村会長、鷹取防犯部長等6人が参加。

今年は7月には既に35℃を超える猛暑日も含め、例年になく暑い日が連続。当日もじりじりと熱い日差しが照りつける中でしたが、参加者の皆さんは看板周囲の繁った草を刈ったり、倒れたり落ちたりしていた看板を設置し直したりと、汗だくになりながら地道に作業を進め、担当地域立川市の境界から多摩大橋の手前までに設置されている看板の点検・補修作業を行ないました。



役員の方々の防災訓練を実施

新年度で役員が交代したため、昭島団地自治会では新たに役員となった組長・副組長の皆さんを対象に、防災無線・非常用発電機・スタンドパイプの操作訓練を行ないました。訓練は7月15日、29日、8月5日の3回に分けて行なわれ、延べ31人が参加しました。いずれも30℃を超える暑さの中で、特に2回目と3回目は35℃を超え熱中症アラートが発令されたため、無線機の操作のみを行ないました。写真右は初日のスタンドパイプ訓練の様子です。



各自治会ごとの防犯パトロールを実施

防犯部の主導で、7月30日から各自治会ごとに順次実施してきた防犯パトロールが、8月26日の昭島団地を最後に終了しました。昭島団地では当日暗くなってから市が設置した街路灯のラベルに付けられている標識番号の確認を実施（写真下）。この標識は街路灯の故障時にその番号を市に連絡すれば場所が分かるように付けられたものです。点検の結果、標識がないもの、傷んではいけそうなのものがかなりあることが分かり、後日この結果を市に報告することにしました。



連合自治会長のつぶやき

季節も夏から秋に変わってきました。

今年は5月によろやく新型コロナの規制が緩和され、各地域で4年ぶりの行事が再開されています。昭島市でも、郷土芸能まつりやくじら祭りが開催され大変賑わいましたし、各自治会でも祭礼や運動会など、恒例だった行事が再開され始めました。

そのような人が密集する中でも、マスクをしていない方が多数見受けられるようになりましたが、コロナの感染は未だ沈静化したわけではありませぬので、状況に応じてマスク着用や手のアルコール消毒など最低限の感染対策は必要かと思ひます。

また、気象庁の発表によると今年の夏の気



温は平年より高く35℃以上の猛暑日の記録を更新。そのために7月下旬～8月上旬にかけては熱中症になる人が増加し、救急搬送されているニュースが毎日放送されていました。この猛暑日は8月中旬を過ぎて続き、昭島市でも連日熱中症アラートの放送がありました。これも地球温暖化の影響だと指摘しているところもあり、またはこれからは地球沸騰の時代が来るという人もいます。

当郷地東町連合自治会も、9月に郷地稻荷神社祭礼を開催し、11月に親睦大運動会の開催を予定しています。いずれも4年ぶりの開催ですが、一人ひとりが健康に留意して無事に開催できますように頑張りましょう。

(志村和亮)